

かわら版



「念願の24時間ライブ映像を配信。合戦場の桜ファンが全国に広がってくるといいですね」
～渡辺保浩さん～

小浜で電気店を営む渡辺さんは、今年の3月から、ウェブサイト「夢現塾(むげんじゅく)」を立ち上げ、「合戦場の桜」を24時間リアルタイムで発信しています。渡辺さんに活動を始めたきっかけや「夢現塾」の名前の由来、今後の抱負等についてうかがいました。



Q 活動を始めたきっかけは？

合戦場には大勢の花見客が集まってきます。過去のピーク時



▲ビデオカメラから見る「合戦場の桜」

は年間約10万人ともいわれ、そのほとんどが桜の時期の来訪でした。ちょうどその頃、「ビデオカメラを取り付けて、24時間、開花状況をリアルタイムで紹介しよう」という話が出ましたが、翌年に震災が起きてしまい、残念ながら実現には至りませんでした。
今年、震災から10年を経て「あの時の計画を実現したい」という思いが湧き上がりました。そして、土地所有者の三浦喜徳郎さんや地元の商店等の協力を得て、実現の運びとなりました。

Q 「夢現塾」名前の意味は？

この名前は、ずっと以前に思



▲緑が深まっていく様子も新鮮

いついたもので、文字通り「夢を現実にする」という意味です。前述の地元の商店等10社に塾生として会費を負担していただいています。夢現塾のホームページ制作や維持、ビデオカメラの設置にかかる費用を会費から賄い、代わりに、塾生のお店や企業の広告をホームページに掲載しています。
この活動を通して、塾生の皆

QRコードで簡単アクセス！
合戦場のしだれ桜
24時間ライブ映像

お気に入り登録して友人にもシェア！

春夏秋冬、1日24時間、リアルタイムに桜の木の成長が見られます。下のQRコードからアクセスしてください。

最初に「いわしろ夢現塾」のホームページが立ち上がります。「合戦場のしだれ桜」「片倉の梨の木」「人待ち地蔵」「万人子守地蔵尊」の画像下の「合戦場のしだれ桜のライブカメラを見る」をクリックしてください。



さんはもちろん、合戦場にご縁のある人々や地元の方々が、夢を現実にして元気になるためのきっかけづくりができたら嬉しいですね。

Q 今後の活動や抱負は？

桜の時期だけでなく、1年中カメラを設置しているのは、四季折々の桜の樹木の美しさを感じてほしいからです。

緑がどんどん深くなっていく様子や、雪に覆われた冬の光景も見事です。将来は、そういった時期にも合戦場を訪れてもらえるようカメラを使ったイベント等も行ってみたいですね。

樹齢200年といわれる桜の古木を見守りながら、春の訪れを待ちわびる気持ちで、全国に「合戦場の桜」ファンが広がって、全国に

小瀬川発電所開設100年記念 パネル展を開催中



場所／岩代支所 一階ロビー
期間／7月16日(金)まで
時間／8時半～17時頃

「岩代小浜の歴史と文化を護る会」では、小瀬川発電所の開設100年を記念し、パネル展を行っています。

パネル展では発電所開設の軌跡を詳しく紹介。小浜中学校の生徒も地元の歴史を学ぶ授業で見学に来る予定です。歴史的な写真も展示していますので、誘い合わせてみてください。

I Love Iwashiro ⑧ 杉沢・岩ヶ森公園

岩代を愛する人がすすめる地の魅力あるスポットを紹介。八回目は、岩ヶ森公園管理委員の菅野秀夫さんです。

「岩ヶ森公園は、昭和40年頃に杉沢地区の岩ヶ森街道沿いの小高い丘の上に誕生しました。当時、杉沢地区には共有地が多くあり、「各地区に公園を造ろう」という計画のもと整備。各戸から花や植物を持ち寄って植栽が行われ、遊具も設置され、



▲6月は紫陽花も見頃に

昔は子どもたちの遊び場として賑わいました。

春の桜に始まり、紫陽花、サツキ、ツツジが咲き、新緑や秋の紅葉の時期も美しいです。そして冬は、満天の星空を眺める人もいます。

先日、早起きして日の出を眺



▲春は桜並木が美しい穴場スポット

【I Love Iwashiro】

★ 紹介者募集中 ★

あなたの好きな岩代の場所やシーン、懐かしい思い出等を教えてください！

- * あなたの大好きな場所
 - * 懐かしい思い出にまつわる光景
 - * あの時期のあのシーン.....
- などなど皆さんの岩代自慢の声を聞かせてください。「かわら版」にて随時紹介させていただきます。連絡先は ☎55-2111(代) 岩代支所 集落支援員まで

◇ 紹介してくれた方 ◇ 菅野 秀夫さん

「杉沢地区が所有し、管理は杉4自治会に任されています。全31戸が3班に分かれ、夏と秋に草刈りなどを行っています。昔の杉沢地区には文化人が多く住んでいたといわれます。それら風流を愛する先人たちが遺してくれた公園なので、改めて皆で護っていきたいと思います」



めに行きました。が、山合いに上る朝陽を浴びて不思議な心地よさを感じました。昔と比べて現在は戸数も減り、整備も行き届きませんが、先人から受け継いだこの公園を維持していくことが私たちの役割だと感じています。



▲展望台から雄大な山並みが一望できる

岩代の歴史シリーズ

小浜の子守り歌 ②

(前号からの続き)

しかし、昭和四年からの世界大恐慌により養蚕や製糸業が大打撃を受け、さらに太平洋戦争が焼失したにより交通・商業の要衝としての役割が変化し、徐々に衰退していくのである。現在も、少子高齢化の波や鉄道沿線都市部への大型店の進出等により商店はもとより、住民が激減している。

当時のにぎわいに少しでも近づきたいものである。ちなみに、この小浜の子守歌旋律は「江戸の子守歌」とも言われ、宝暦・明和年間に江戸で流行したもので二〇〇年以上たった今でも歌われている。また、歌詞について、伊達郡には「保原の町に：♪や♪掛田の町に：♪などといいかえたものもあるという。(『福島の民謡とわらべ歌』参照) <終>

